

■発行者

〒044-0085

北海道倶知安町字峠下113-14

障害者就労支援施設羊蹄セルフ

TEL 0136-23-0425 FAX 0136-22-1985

【E-mail】selp@tukusien.com

【ホームページ】http://tukusien.com

■発行責任者/大代 貴輝

■編集者/中村 徹夫



社会福祉
法人

黒松内つくし園

羊蹄セルフだより

—平成20年6月—



6/21 羊蹄セルフ利用者送迎のスナップ

基本方針—羊蹄セルフ・羊蹄・つくしんぼ—

- 利用者および職員の自尊感情を傷めることがないように、コミュニケーションの質の向上に努め、穏やかな支援を提供します
- 職員一人ひとりが「誇りを持てる仕事」を目指します
- あらゆるルールを守ります

羊蹄セルプ就労継続支援事業(B型)

利用者

綿谷 一雄さん(47歳)

15歳で中学を卒業後、小樽の建設会社に就職し3年程大工をしていました。主に住宅施工をしていました。

その後、岩内で作工大工を15年程勤めました。

こちらでは主に躯体工事を行っていました。

15年近くも大工仕事をして、腕に覚えがありました。

30歳になった年の12月4日、岩内の国道沿いで建築作業中に、車のはねた小石がこめかみに当たり意識不明の重体に…。岩内協会病院に搬送され、その後小樽脳神経外

科に転送されました。4ヶ月間意識がない状態が続きました。

数ヶ月間の車椅子生活の後、リハビリを続けてなんとか歩行可能な体に回復しましたが、今も右半身に麻痺が残り更に脳挫傷のため言語にも一部障害があります。

退院後共和町役場の人のすすめで北海道リハビリという障害者の授産施設でクリーニング作業をしていましたが、羊蹄セルプを知り利用を始めました。今年でもう7年にな



ります。現在は主に納豆工場で納豆製造の作業をしています。

始めのうちは失敗もありましたが、繰り返すうちに仕事も覚え、今では仕事がとても楽しく感じています。

セルプでの仕事では納豆作業が一番好きです。盛り・トップシール・検査どれもおもしろく、消費者の方が笑顔で「美味しい」と言いながら食べて下さる姿を思い浮かべると、作業が楽しくなりますし気を抜くことはできません。

ある時ホテルに宿泊する機会があり違う納豆を食べましたが、どうも美味しく感じません。やはりセルプの“えぞふじ納豆”が一番です。これからも納豆品質鑑評会優秀賞を受賞した誇りを持って美味しい納豆を作り続けたいと思います。



就労継続支援事業とは…

一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。このうちA型は雇用型(雇用契約を交わす)、B型は非雇用型(雇用契約を交わさない)事業をいいます。



利用者の背景
—第2回—

セルプでの仕事は納豆作業が一番好き。

倶知安3施設職員紹介02

羊蹄セルブ職員 2/15名



主任(作業統括責任者) 土橋 祐 司 (36歳)

倶知安町出身。札幌の某自動車短大(下に紹介の納豆王子こと土生貴文の先輩)卒業、平成9年4月に当法人入職。主任・作業統括責任者として就労移行支援事業・就労継続事業B型の生産活動および利用者職業支援等のまとめ役。ビールと源五郎丸(愛犬)をこよなく愛する。



職業指導員(納豆王子) 土 生 貴 文 (22歳)

ニセコ町生まれ。倶知安農業高校卒業後、札幌の某自動車短大に進学したものの、自分の将来に疑問を抱き中退。平成19年に羊蹄セルブ採用。職業指導員として利用者さんとともに納豆作りに情熱を燃やしている。納豆と利用者さんをこよなく愛する。ニックネームは納豆王子!!

「羊蹄セルブ」「羊蹄」「つくしんぼ」では合わせて25名の職員がいます。前号より2名ずつ職員を紹介しています。

表紙から「利用者送迎」



羊蹄セルブで実施している通所形の障害福祉サービス事業には、就労移行支援事業(定員20名)と、就労継続支援事業B型(定員20名)があります。

そのご利用の重要な足となっている「送迎」の現状について今回ご紹介します。

平成20年6月1日現在、送迎利用者は全体の実に78%にのぼります。送迎範囲は倶知安町内と共和町方面(南幌似地区)でご利用いただいております。

送迎車両は専用車両4台(車いす対応車3台と乗用車1台)が運行していますが、送迎利用者の多い日には配達車両も加わります。

「安全を最優先」の運行を心掛けています。



羊蹄セルブの作業の一場面

6/16 好天の中、花の植え付け作業を行いました。マリーゴールド・ペゴニア・サルビア・インパチェンス、アゲラタム等々520株。今が見頃です。

はい。羊蹄セルブ“中村”でございます!

—中村徹夫の編集メモ その3 水無月(Edit Memo of Jun)

利

利用者の背景については、私が当該の利用者さんがどのような経過があって利用するに至ったのか。また、インタビューをとおして、利用者の方々から普段なかなか聴くことのできない話を聴きたい!ということからでした。

今回で2回目です。今号では、綿谷一雄さんを取材させていただき、初めて、綿谷さんのここまでに至る経緯を知りました。いつも穏やかで笑顔を絶やさない綿谷さんにこんな過去があるとは思いませんでした。でも、常に真っ直ぐ前を見て仕事に希望と誇りを持ち、明るく人と接する姿には脱帽します。自分を律しながらも、周囲の人には穏和さを与える、強い心の持ち主だなと感じ入りました。私もその姿勢を学ばなければと、思います。

果たして中村は変わるか? うん...。



広報担当 中村 徹夫 (羊蹄セルブ事務員)